http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.035　12/06/06

# 自分自身で勉強する

前号の続き。

考査が終わって、思い通りにならなかった人で、「このままではダメだ！何かに頼らなければ!!!」と思った人がいるとしたら、それは大きな間違いであることを強調しておきたい。ダメな状況を変えるのは、あくまでも自分自身の毎日の努力（予習→授業→復習）であるという根本を忘れてはいけない。

同時に、塾や予備校などで時間を取られてしまい、副教材などの試験範囲を終えることが出来ないまま試験を迎えた人がいるとしたら、その人もサッサと塾や予備校を止めた方がよいと私は思う。

前に担任を持った際、私のクラスから現役で東大に合格した３人は、全員１年生の時には、塾にも予備校にも通信添削にも関係のない生活を送っていた諸君である。（最後までまったく参加しなかった人１人、３年生になってから週に２日２科目に通った人１人、３年の12月になって直前講習に参加した人が１人である）。

１年生は、学校の授業を理解することが第一である。そのためには、予習をきっちりすべきだろう。そして、授業で分からないことがあれば、すぐその場で友だちに聞く、先生に聞くという手順で、解決を先送りにしないことが肝要である。塾や予備校で習えば（聞けば）…というのは幻想であって、そうやって時を逃すことが積み重なると、ますます「分からない」は重症化していくのである。その予防のためにも復習が重要になる。

＊

もう一つ、試験前・試験中の放課後、教室に残って勉強していて「本当に効果的だったのか？」も素直に振り返ってみてほしい。

私は、分からない所は友だちに聞くのが一番イイと思っている。先生に聞きにいって、関連事項まで長々説明されたという経験がある人もいるだろう。友だちなら、そういう場合にストップがかけやすいし、分からなければ遠慮せずに聞き直すこともしやすいだろう。また、教える方が勉強になるというメリットもある。簡単な問題を分かりやすく解説するのは、基礎を振り返る意味で大切だし、難しい問題を解説するなら、それなりの理解が出来ていなければならないし、自分の解法の過程を振り返ることにもなる。また、質問に答える中で、教えている側が新たな疑問を発見することだってあるかも知れない。

しかし、その「教え合い」が「なれ合い」になってしまい、さらにお喋りになってしまうとしたら、それは単なる時間の無駄である。何人かの先生方から、15Rの教室が（一時的かも知れないが）そういう状況になっていたという話を聞いた。たまたまそれが「休憩」だったということもあるだろうが、多人数で勉強していると、往々にして休憩の割合が増加しがちであることは自覚すべきである。

最終的には「自勉」できるかが結果を左右する。友だちの力を活用し合いながらも、最後は自分自身で勉強するのだという強い気持ちをもってほしいものである。